

なぜ機関リポジトリが必要なのか（リチャード・ギャラガー）

Why We Need Institutional Repositories By Richard Gallagher, Editor.

The Scientist, Vol.19, Issue 19, Oct. 10, 2005. p.8. Upfront/Editorial

<<http://www.the-scientists.com/2005/10/10/8/>>

科学作業（Scientific work）の記録は、雑誌に出版された時点で完結するとされていた。「ノーベル賞受賞者」を読む、えり抜きの少数にとって、実験室のノートや手紙に興味がある。しかし、雑誌クラブのノートから実験室のパーティーの発見の瞬間まで、研究室で行われている全てを捕らえる必要があることが、生命科学における驚くべき情報革命を通じてますます明確になっている。それは、機関リポジトリの時代であることを意味する。

生命科学における知識の急速な爆発にもかかわらず、デジタル化、蓄積および保存（curation）の完全な約束は実現にほど遠い。ゲノム学（genomics）やプロテオミクス（proteomics）のような、情報が稠密な学問分野であつという間に主流となった、大規模で専門分野に特化したリポジトリは、まさに氷山の一角である。

それ以外の 7/8 は、デジタル保存及び配布の最も包括的な仕組みを提供する、MIT の DSpace[<http://www.dspace.org>]のような、機関リポジトリの形から来ている。DSpace およびそれ以外の広範囲のデジタル・アーカイブは、本当に変貌しつつある。それらは、研究データ、雑誌論文、学位論文、教育・学習資料、公衆のための情報、シンポジウム、講義、および実験室の生活の非公式な会計記録を収蔵するであろう。それらは、基本的に大学で発展してきたにもかかわらず、カスタマイズされたりポジトリを、企業を含む他の状況へ導入してはならない理由は何もない。

DSpace の導入は、このように叱咤激励する。「DSpace は、いかなるフォーマットのデータも、つまり、テキスト、ビデオ、音声およびデータを捕捉する。それは、作業を索引化し、ユーザはアイテムを検索できる。それは、デジタル作品を長期間にわたって保存する。DSpace は、専門家が維持管理するリポジトリにおいて、研究資料と出版物の認知度および長期間にわたるアクセス可能性を非常に高めるために管理する方法を提供する。」

現在、多くの科学者個人および実験室では、独自のウェブサイトを維持管理し、その質と鮮度は、極めて多様である。それとは、対照的に標準フォーマットで機関リポジトリに日常的にデータをアップロードすることができる。実験室を越えた、共有ソフトウェア、セキュリティおよびバックアップの手順は、もっと多くの可能性のひろがりをもたらす。

長期間の保存は別の要因である。機関リポジトリで、導入された、実験室の記録の永続性を保証する、新しいフォーマットに移行することができる。研究雑誌のみが、比較可能な水準で管理機能を持ち、関連する実験室の生産物の断片を収容する。データベースは、また、既存の雑誌よりも、新しい情報が発見された場合に立ち戻る、消極的なデータのア

クセス可能なアーカイブを含む可能性が高い。

ネットワーク化コアリション (Coalition for Networked Information) の議長である、Clifford A. Lynch による卓越した展望によれば、機関リポジトリは、「学術の記録と議論の不可分な部分としてのデータを重視する、学術の新しい実践を支援する。それは、大学の知的生活の学習・教育資料、シンポジウム、パフォーマンスおよび関連するドキュメンテーションを捕捉し、配布するための拡散しがちなそれ以外の取り組みを構造化し、効率化することができる。」¹⁾

この機関リポジトリの新しい世代は、既存のデータベースと競合せず、それは、データベースを補い、拡張する。同時に、それは、学術のセンターおよびコミュニティのハブとしての機関 (大学についていえば) の立場を再確認する。

新しいキャリアの機会と会議これらの発展を支援するために発生しつつあるのはたぶん当然である。最初のデジタル保存の国際会議が 9 月末に開催され²⁾、そして、最初の生物保存会合が 12 月に開催される³⁾。

前向きな生命科学者は、これらおよび機関リポジトリとデータベース保存における発展が対応することを希望するであろう。私たちはあなたがポストしたものの必ず保管するだろう。

引用文献

1. "Institutional Repositories: Essential Infrastructure for Scholarship in the Digital Age"
<http://www.arl.org/newsltr/226/ir.html>
2. <http://www.dcc.ac.uk/training/doc-2005/>
3. <http://tesuque.stanford.edu.biocurator.org/intn/biocurator.html>